

同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局
School of Health Sciences, Shinshu University
第16号 2018年10月



—目次—

川上由行先生 同窓会会長の挨拶	2
濱田州博先生 学長のご挨拶	3
金井誠先生 同窓会名誉会長のご挨拶	4
夏期海外研修報告	5
平成29年度活動報告	7
学生課外活動支援	9
州嶺会設立30周年記念事業	9
卒業生の声	10
総会記録	12
平成29年度事業報告	13
平成30年度事業計画	14
同窓会役員	15
信州大学医学部保健学科同窓会会則	15
編集後記	16

2018
第16号

小平奈緒選手に信州大学同窓会連合会賞を授与!!!

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行
(信州大学名誉教授/医学部特任教授(研究))

快晴の青い空に満開の桜が映える4月4日、松本市総合体育館で開かれた信州大学入学式に、編入学生・留学生を含む8学部2,114名と大学院6研究科781名が臨みました。入学式に続き、信州大学同窓会連合会から4組に表彰状と記念品が贈られました。教育学部卒業生でスピードスケートの小平奈緒選手は、3回目の受賞の栄に浴しました。表彰規定には「個人の表彰は原則一回に限る」とありますが、今回も慎重な議論の末の受賞でした。彼女はピョンチャン・オリンピック選手団団長を務めながら、素晴らしい活躍で金メダル・銀メダルを獲得したことに加え、彼女のオリンピックにおける数々の感動を呼んだ振る舞いも受賞を後押ししました。更には、長野県が県民栄誉賞、長野市は市民栄誉賞に加え更に市長特別賞、松本市と茅野市がそれぞれに市民栄誉賞で栄誉を讃えるなど、彼女の際立った業績に鑑みて3度目の受賞になりました。濱田州博学长も式辞の中で小平選手について触れるなど、小平選手一色の入学式でしたが、同窓会連合会賞の授賞式後に、新入生へ向けて小平選手が発信したメッセージには、多くの新入生は大いに触発されたのでは、と思いました。

今年の受賞者が、スポーツ関係以外で医学部から選出されたのは画期的でした。昭和38年に医学部を卒業生された安倍泰夫先生です。安倍先生は信州大学で医学博士を取得された小児科医です。昭和45年(1970年)よりネパールで医療活動を展開する中で、現地の少女を養女にするなど、現地に溶け込んで活躍されました。昭和59年(1984年)に松本市にNGO・カトマンドゥを設立し、平成2年(1990年)より長野の牛乳パックリサイクル運動とも連携しながら、トリスリ地区での植林活動(20万本)を実現しました。これら緑化活動以外にも、簡易水道の敷設、耐震コンクリートモデルハウスの建設等々、阿部先生の私財を投げ打っての長年に渡る活動が評価されての受賞ですが、先生のネパールでの献身的な尽力には、ただただ敬意を表するのみです。

これまで表彰対象がスポーツ活動に偏重し過ぎてい

た感があることから、今後は幅広い分野で活躍されている卒業生を発掘表彰していくことが確認されています。

保健学科の在校生・卒業生は、まだ誰も受賞の栄に浴していません。教

員の皆様には、在校生の顕著な活躍を見逃さずに、卒業生には広くアンテナを巡らせ、表彰に値する功績を洩れなく収集して下さいをお願いします。また、保健学科同窓会分科会の「桐の木会」、「アルプス会」、「臨嶺会」そして「州嶺会」からも、同窓会連合会賞に相応しい候補者を、ご推薦いただきたくお願いします。

保健学科関連では、大学院博士後期課程の「医学系研究科」と「総合工学系研究科」が統合再編され、新たに「総合医理工学研究科」が今年4月に設置されました。医療・福祉を支える人材育成に資するため、平成28年に新設された生命医工学専攻修士課程の学年進行に伴って博士課程が設置され、医学系研究科と統合されました。保健学科の在校生諸君、また卒業生の皆さん、新たな研究科「総合医理工学研究科」での研鑽をぜひ目指して下さい。



信州大学医学部保健学科同窓会会報 学長のご挨拶

信州大学 学長 濱田 州博

日頃より信州大学医学部保健学科同窓会の皆様には、一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。まずは厚くお礼を申し上げます。

さて、平成になってから30年目を迎えました。私自身に関しては、1988年、昭和63年の6月に信州大学に赴任しましたので、今年の5月末でちょうど30年間信州大学にお世話になったこととなります。平成のすべてを信州で過ごしてきましたので、何となく感慨深いものがあります。1988年の出来事を調べると、青函トンネル開通、瀬戸大橋開通、北陸自動車道全線開通、東京ドーム開業など、インフラ整備が完成した年であり、また、バブル景気のまっただ中だった記憶があります。日本の名目GDPは、1980年に約247兆円だったのが、1991年に約479兆円と倍増した後、500兆円を挟んだ推移となり、2016年には約537兆円となっております。一方、アメリカの名目GDPは、1980年に約2.86兆ドルだったのが、1991年に6.17兆ドルとなり、2016年には18.62兆ドルとなっております。日本の名目GDPは、ドル換算で1988年にアメリカのほぼ半分だったのが、2016年にはほぼ4分の1となっております。平成の30年間で大きく差がついたこととなります。平成の30年間を分析し、次の30年に向けた戦略を十分に考えていく必要があると思います。

ところで、信州大学の近況について少し説明させていただきます。新しい時代に対応した博士人材の養成を目指すため、大学院博士課程の「医学系研究科」と「総合工学系研究科」を統合再編し、新たに「総合医理工学研究科」を平成30年4月に設置しました。超高齢社会の医療・福祉を支える生命医工学分野の人材を育成するため、修士課程に新設した生命医工学専攻の学年進行に対応し、博士課程にも生命医工学専攻を設置しました。新たな大学院教育の幕開けとなりますので、信州大学が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。保健学科同窓会の皆様には新たな研究科での勉学をご考慮いただければと思っております。また、研究面では、JST産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）に本学提案の「生理学的データ統合システムの構築による生体理込型・装着型デバ

イス開発基盤の創出」が採択され、齋藤直人教授を領域統括として着々と進めております。

そして、来年、平成31年（2019年）には、信州大学創立70周年（旧制松本高等学校100周年）を迎えます。信



州大学の歴史を振り返る機会とし、歴史をもとに次代の信州大学を考えたいと思っております。信州大学創立70周年のウェブページ(<https://www.shinshu-u.ac.jp/univ70th/>)を開設しましたので、ぜひご覧いただき、ご寄付やメッセージのご協力を賜れば幸甚です。

大学は、在学生や教職員だけではなく、様々な方々と意見交換し、変化に呼応した活動を展開していく必要があります。同窓会の皆様のご支援、ご協力を得ながら次の時代に繋がる活動を行う大学を目指したいと思っております。これまでと同様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 **金井 誠**
(信州大学医学部 保健学科長／看護学専攻 小児・母性看護学領域 教授)

保健学科同窓会の皆様には、平素より在校生の教育および学科運営に多大なご理解とご支援をいただいております。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

今年の夏は、命に関わる災害並みの猛暑でしたが、皆様お元気でしたでしょうか？実際の災害も、大阪府北部地震（6月18日、震度6弱）、平成30年7月豪雨（6月末から7月上旬、台風と梅雨前線による集中豪雨で西日本を中心に全国的な被害発生）、台風12号（7月末に日本列島を逆走）、台風21号（9月4日、25年ぶりに非常に強い勢力のまま上陸し甚大な被害発生）、などと数多く発生し、日本列島に大きな被害と疵痕を残しました。と書いていました9月6日未明、北海道内陸部で震度7の巨大地震が発生しました。被害を受けた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

防災は、国だけでなく大学としても様々な観点で取り組むべき大きな課題となってきていますが、最も重要なのは有事における地域での助け合いだと思います。皆様も、個人のレベルでできる防災対策に取り組むと同時に、地域で助け合う体制を構築しておきましょう。難しいことを始めるのではなく、普段から顔の見える関係で話をしたり、些細な助け合いを始めるだけでも良いかと思えます。

さて、保健学科では、南校舎内の教育環境整備を部局重点事業の一つに位置付けて、新しい環境での教育・研究環境を整備中です。こうした事業には、同窓会から毎年頂戴しております専攻配分の教育・研究経費も自己財源とさせていただいており、大きな支援に重ねて御礼申し上げます。ご来校いただいた際には、是非とも新しい校舎などをご覧いただきたく存じます。

また、地域保健推進センターの地域貢献活動として、市民が参加できる健康講座（春と秋開催）は毎回非常に好評で、継続した開講を希望する声を数多く頂戴しております。本年度も春期は「こころと健康のおはなし」をテーマに4回開講いたしました。秋期も「寒さと健康のおはなし」をテーマに4回の開講を予定しております。皆様方も是非参加してみてください。また今年度は、講座内容をDVDにして、地域に貸し出す企画にも取り組んでいます。

さらに、保健学科と附属病院看護部とが主体となって、平成26年度から実施している文科省・課題解決型高度医療人材養成プログラム『実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業』も今年が最終

年度となりました。第1期は修了生51人を輩出し、本年12月に修了する第2期生も52名が研修中です。在宅療養で質の高いケアを提供する看護師の育成を目指す本事業は、国や多くの関連施設から大きな期待を受けています。

以上のように、保健学科では毎年新たな取り組みを積極的に展開しており、さらなる発展に尽力していく所存です。同窓会の皆様方には、一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



夏期海外研修報告

シンガポール

シンガポール海外研修

看護学専攻3年 椎野 秋穂



平成30年度は8月10日から約1週間にわたってシンガポール夏期海外研修が行われました。この研修を通して、シンガポール独特の文化や考え方、それらに基づいた医療のあり方について学ぶことができ、有意義な1週間を過ごすことができました。

今回の研修ではSingapore General Hospital (SGH)、Changi General Hospital (CGH)、Bright Vision Hospital (BVH)、Bedock Polyclinic、KK Women's and Children's Hospital (KKH) の計5つの病院と、看護師やPT、OTなどの養成を行う大学であるSingapore Institute of Technology (SIT) を見学しました。SGHやCGH、Bedock Polyclinicは病院の規模は異なるものの総合病院であるのに対して、BVHはリハビリテーションや慢性期にある患者さんのケアが中心となる病院です。また、KKHは産婦人科と小児科を中心とする専門病院です。したがって、様々な役割を担う病院を見学することができました。

複数の病院を見学してまず感じる印象というのは、病院自体が非常に明るい雰囲気に含まれているということです。これは決して清潔感があるということだけではありません。病院に来たことをあまり意識しない、緊張感をもつことがない空間が作られていました。また、実際に見学を進めるなかでも建物に中庭が設けられていて多くの植栽を見ることができ、安らぎを感じる空間が作られていることには驚かされました。また、SGHやCGHでは入院患者に装着するリストバンドと天井などに設置された専用端末を使って患者の居場所を常に把握していることに驚かされました。このシステムを活用することで在室状況に応じて病室の清掃を行うということでした。患者さんのプライバシーの確保

などで課題があるのではないかと感じた反面、如何に効率的に病院の運営をするかが重要視されていることを感じました。また、多くの病院で感染制御に関心をもって取り組んでいる様子を見ることができました。廊下にはサージカルマスクや消毒用アルコールを設置しているのはもちろんのこと、至る所に手指衛生の徹底を訴えるポスターが貼付されていました。加えて、教育にも非常に力を入れていることを感じることもできました。SGHやSITでは研修施設、教育の場を見学しましたが、設備の充実さに驚かされました。SGHには臨床現場を模したシミュレーションルームが多数あり、そこで様々なシチュエーションにおける対応を検討し、何回もロールプレイを重ねることで正確な対応も身につけるということでした。様々なシチュエーションを設定できるように使用するマネキンは心拍や呼吸が再現されるのはもちろんのこと、瞳孔の大きさまでもが変化するということが驚かされました。現地の方はアジアでは一番の教育施設だとおっしゃっており、納得の設備だと感じました。

研修が始まる前週にシンガポールは建国53周年を迎えました。国としての歴史は日本に比べれば非常に短いものです。しかし、今回の研修では驚かされることばかりでした。日本は今後、世界トップクラスの早さで高齢化が進む中でシンガポールの医療から逆に見習うべきことが多くあると感じた1週間になりました。



シンガポール海外研修

理学療法学専攻2年 加藤 愛満

私は今回で2日目の海外になりました。しかし、英語圏に行くのは今回が初めてだったため、英語が聞き取れるか、自分の伝えたいことが伝えられるか、とても不安のなか出発となりました。また、今回は学生のみでの行動だったので、飛行機の搭乗などの不安もありました。たくさんの不安を抱えた状態でしたが、みんなで協力しあい無事シンガポールに到着することができました。

シンガポールでは、Singapore General Hospital (SGH)、Singapore Institute of Technology (SIT)、Bright Vision Hospital、Bedok Polyclinic Heartbeat、KK Woman's and Children's Hospitalの5つの施設を訪問させていただきました。それぞれの病院では、病院の成り立ちなどの話を伺い、その後は施設の見学をしました。どの病院も日本と異なり、IT化が進んでいたり、ショッピングモールのような構造になっていたり、看護師や理学療法士の業務範囲が広いなど驚かされることばかりでした。また、SGHでは現地の理学療法士さんについて回って3時間ほど過ごさせていただきました。そこでは実際に学校で学んだ技術が使われており、現在学んでいることが将来自分の技術として使うのだと実感し、これからの意欲になりました。一方で存知しない技術もあり、これから学習していくのかと心を躍らせました。SITでは授業プログラム、シンガポールの国家的な健康プロジェクトについて話を伺いました。昼食の時間はSITの理学療法学専攻、作業療法学専攻の方々とともにお話をしたりダンスなどをして過ごしました。午後は施設を見学させていただきました。シンガポールはIT化が日本よりも進んでいるので見たことのない機械がたくさんありました。そ



れはどれも日本にもあれば良いのと思わせる機械ばかりでした。これらの施設を訪問したことは、日本の医療の現実を海外からみるよい機会になったと思います。

研修がお休みの日にNational Museumへ行きました。日本語ガイドを受けながら館内を1時間弱、シンガポールの約700年の歴史に触れることができました。シンガポールの歴史はまだ浅いにも関わらず、現在までの発展力に驚きました。また世界大戦終了前の日本領土であったシンガポールの話は、私は存知していませんでしたので非常に印象的でした。またNational Museumの敷地内にはチームラボも関与する棟もあり、とても刺激的な日になりました。

シンガポールでの日々はとても充実した時間になりました。このような時間になったのは、現地で私たちをサポートして下さった中澤さんのお陰だと考えます。今回学んだことや、感じたことをこれから生かしていくことが今後の課題になるかと思いました。



平成29年度 活動報告

スポーツ大会

平成29年9月27日(水)

平成29年9月27日（水）に信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻3年生が企画したスポーツ大会を松本市総合体育館にて開催しました。このスポーツ大会を行うにあたり、保健学科同窓会から体育館および照明の使用や競技用器具の借入れなどを助成していただいたのでスポーツ大会に必要な物を揃えることができました。スポーツ大会には1年生3名、2年生7名、3年生33名の計43名が参加し、4つの1～3年合同チームに分かれてポートボール、クイズ、ドッジボール、バレーボール、障害物リレー（パン食い競争や二人三脚、縄跳びなど）を行いました。今回のスポーツ大会は主催の3年生だけでなく1、2年生との交流の場ともなり、学年の幅を超えて学生間の親睦を深めることができました。



相良先生・坂口先生退職記念講義

平成30年2月19日(月)

平成30年3月6日(火)

平成30年3月末をもって、検査技術科学専攻・相良淳二先生と看護学専攻・坂口けさみ先生が退職されました。2月19日（月）には「基礎研究から臨床へ：デンジャーシグナル経路のアダプター分子と自己炎症疾患」、3月6日（火）には「看護学・助産学の発展をめざして」とそれぞれ最終講義が旭総合研究棟9階講義室にて行われました。当日は、学内・学外関係者大勢の方々のご参加をいただきました。



卒業祝賀会・優秀学生表彰

平成30年3月21日(水)

平成30年3月21日(水)に旭会館一階にて卒業祝賀会を開催しました。金井学科長と各専攻の成績優秀学生のみなさんです(写真左から 看護学専攻・飯森華恵さん 検査技術科学専攻・上條途夢さん 理学療法学専攻・小池眞琴さん 作業療法学専攻・市ノ羽由佳さん)。



大学院修了祝賀会

平成30年3月21日(水)

平成30年3月21日(水)に大学院修了祝賀会を開催しました。博士後期課程修了者は5名で、学位論文は以下の通りでした。

・西澤 公美さん

Enhancement of motor skill learning by a combination of ideal model-observation and self-observation
(理想的なモデルの動きと自身の動きの同時観察に基づく動作練習による巧緻的運動学習の効果)

・牛山 直子さん

Validity of maximal isometric knee extension strength measurements obtained via belt-stabilized hand-held dynamometry in healthy adults
(健常成人におけるベルト固定ハンドヘルドダイナモメータによる最大等尺性膝伸展筋力測定の妥当性)

・高橋 理沙さん

Driving simulation test for evaluating hazard perception : Elderly driver response characteristics
(危険認知を評価する模擬運転テスト : 高齢ドライバーの応答特性)

・中村 慶佑さん

Development of an Incremental Sit-to-Stand Exercise for Aerobic Fitness Evaluation
(有酸素能力評価のための漸増起立運動負荷試験の開発)

・根岸 達哉さん

Characterization of clinically isolated thymidine-dependent small-colony variants of Escherichia coli producing extended-spectrum β -lactamase (ESBL)
(臨床検体より分離された基質拡張型 β -ラクタマーゼ産生性Escherichia coliのチミジン要求性small-colony variantsの特徴)



平成30年6月23日(土)、「認知症にやさしい社会」を考える～認知症の人の声を聞きながら～をテーマに、町永俊雄氏(福祉ジャーナリスト、元NHK福祉ネットワークキャスター)の公開講演会を開催致しました。これまで経済・暮らし・教育・福祉等の情報番組を担当し、2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、障がい・医療・うつ・認知症・自殺等の福祉課題を広く伝えてこられました。現在はフリーの福祉ジャーナリストとして、高齢社会や地域福祉をめぐる番組や執筆の他、各地でシンポジウムや講演活動を行っております。当事者が暮らしやすい社会はどのようなものかを考える話題を提供していただきました。

教員・学生・一般の方々合わせて221名が参加し、認知症の人の暮らしを考える貴重な機会となりました。

学生課外活動支援

平成30年8月4日に行われました学生による松本ほんぼんでの踊りコンクール参加の支援を行いました(うちわ・ペットボトル飲料)。35名(看護学専攻:5名 理学療法学専攻:26名 作業療法学専攻:4名)が参加し、交流を深める機会となりました。



州嶺会設立30周年記念事業



▲ 現州嶺会会長 森本正道氏 挨拶

保健学科同窓会を構成する州嶺会(理学療法学・作業療法学にかかる学生及び卒業生)の設立30周年を祝う記念式典・祝賀会が、平成30年9月16日(日)、医学部地域保健推進センターにて行われました。当日は記念講演Ⅰ「州嶺会の歴史とこれから」を歴代の会長に行っていただき、次いで、森岡周氏(畿央大学教授)による記念講演Ⅱ「脳科学と臨床・教育の接点」を開催致しました。

記念式典では卒業生・教員・学生合わせて114名、祝賀会では62名の出席があり、医療短期大学部時代の教員の先生(望月一郎先生、富岡詔子先生、佐藤陽子先生、牛山喜久先生)をはじめとして、様々な方々と交流を深めることができました。

卒業生の声

「近況報告」

吉江 紀子／看護学専攻 短大11期生

保健師になって30年が経っていることに驚いております。「保健予防」という仕事に魅力を感じ保健師となり、地元に戻り出身市「佐久市」に就職をしました。地域住民・医療関係者の皆様・周囲の先輩職員に育てていただき現在があり、今は佐久市の統括保健師として「専門幹」という役職をいただき課員、上司、関係部局に支えられ、目まぐるしい中で充実した毎日を送っています。今回は、日々の公衆衛生活動と離れ、昨年度夏の貴重な体験に少し触れさせていただきます。

当市は、次世代を担う人材育成事業の一環としてモンゴル国ウランバートル市スフバートル区において中学生が一般家庭や遊牧民宅のホームステイや交流会を通じてモンゴル国の文化や生活習慣に触れ国際的視野を広げることを目的に両国の中学生交流を実施しています。

この研修に副団長として、子供たちの安全は勿論ですが、子供たちのモンゴルにかけける思いを達成できるようにサポートするため同行してきました。中学生とともにモンゴルの遊牧民生活の体験、ゲル（住居）作り、乗馬体験、モンゴルの中学生との交流を体験し、また、区の議長さんの前で、母子保健事業のプレゼンテーションをアプリ等を用いさせていただきました。この研修で成長させていただいたのは、中学生とともに私自身でした。忘れられないモンゴルの満点の星空、そして、人と人のつながりの大切さを本当に肌で感じた研修でした。

この体験を今後の糧に保健師であることにこだわりながら、仕事をしていきたいと今も強く思っています。



「卒後の歩み」

宮部 知佳／検査技術科学専攻7期生

信州大学を卒業し、社会人6年目となりました。医療機器メーカーに就職し、超音波検査機器に携わっております。私は宮崎県出身で、松本での4年間は寒さとの戦いでした。就職し、これで暖かい所に住めるだろうと思った矢先、東北に配属となりました。最初は未知の土地であった東北も、今では地元や松本に並ぶ大好きな場所となりました。



私は未知の土地であった東北も、今では地元や松本に並ぶ大好きな場所となりました。

昨年、久々に松本を訪れ、保健学科棟にお邪魔しました。校舎は建て直しがされておりピカピカの教室、実験室になっていました。自分では最近卒業した気で居りましたが、思ったより時間が経っていることに気づかされました。

私は普段の業務としてエコー装置の調整の仕事をしています。病院はもちろん、球場、動物病院、水族館、動物園など、場所も内容も多岐に渡ります。入社前は、病院の検査室にデモンストレーションに行くと、調整に行くという業務のイメージしかしておらず、現実とのギャップに辛くなることもありました。また、社歴を重ねるにつれて、せっかく臨床検査技師となったのに、臨床での経験を積めないということにもどかしさも出てきました。

しかし、最近になってようやく、メーカーにいるからこそそのやりがいや喜びというものも見えてきました。お客様と開発の橋渡しとなり、よりよい装置の開発に携わっていければと思います。

これから先、どこへ転勤することになるかわかりませんが、どこに行っても通用するよう、日々勉強に励んでいきたいと思っています。

「近況報告」

中畑 温貴／理学療法学専攻6期生

私が信州大学を卒業して6年が経ちました。現在は大阪市内の一般病院に勤務しております。松本での4年間は、勉強に部活にアルバイトにと非常に慌ただしいものでしたが、大変充実したものでした。同窓会や、結婚



式で松本に行くたびに、アルプスの景色や清々しい空気といった本当に素敵な環境の中で過ごしていたと感じています。

私自身、学生時代に部活動にて膝前十字靭帯を損傷し、手術やリハビリを経験したこともあり、スポーツ整形外科がある病院に入職しました。現在はスポーツ障害を含む整形外科疾患を中心に入院と外来患者を主に担当しております。入院患者で担当する疾患は膝前十字靭帯再建術後の方が多く、私自身のケガの経験談も、患者様にとって有益なものとなるように日々研鑽しています。また、外来で担当することの多い肩腱板断裂保存症例に関する臨床研究を3年前から行っており、医師やリハスタッフの指導の下で学会発表や論文の作成を行いました。研究活動を通して臨床における知識や治療技術の向上にもつながり、非常に楽しい臨床生活をおくっています。

とは言っても、知識や技術、コミュニケーションなどで悩むことも少なくありません。その度に、多くの人からアドバイスをいただき、改善していくことが何より大切であると日々感じています。分からないことに対して試行錯誤し続けていくことが理学療法の難しいところであり、楽しいところであると思います。

本年度に、スポーツ理学療法の認定理学療法士を取得しました。取得に向けて、多くのことを学び、振り返ることが出来たことが非常に良いものであったと感じています。今後の目標としては、膝前十字靭帯損傷に対する臨床経験を研究活動に繋げていきたいと考えています。

「学生の頃は想像していなかった日々」

中川 真人／作業療法学専攻2期生

私が三才山病院内の指定療養介護事業所で働き始めて8年目になりました。事業所には、筋萎縮性側索硬化症や筋ジストロフィー、重症心身障害等の患者さんが生活の場として入所されています。身体的に重度で進行性の障害のある患者さんが多い状況の中で、ローテクからハイ



テクまで様々な工夫をして、患者さんのQOL向上に努めています。テレビを操作したい、ゲームがしたい、パソコンやスマートフォンがしたい、ナースコールが硬くて押せない、お酒が飲みたい、電動車いすに乗ってエレベーターのボタンを自分で押したい、社会とのつながりを持ちたい、少しでも働いて収入を得たり役割を持ったりしたい。患者さんの要望は様々です。神経筋疾患患者の支援では、専門的な知識を求められることが多くあります。これまで関係する様々な研修会や学会に参加してきました。そしてその中で多くの出会いがあり、今では全国の支援者や当事者の方とSNSでつながったり、年に数回は実際に会って情報交換したりしています。

また、今は大学院生として視線入力機器の研究をしています。視線入力機器は神経筋疾患患者にとって有益な機器ですが、まだまだ研究は不十分です。患者さんにとって役に立つ研究となるよう頑張っています。

臨床も研究も学生の頃は全く想像できなかった日々ですが、とても充実しています。支えていただいている多くの方に感謝し、今後も自分のできることを一生懸命取り組んでいきます。

総会記録

平成30年度 信州大学医学部 保健学科同窓会総会 議事録

日 時:平成30年6月23日(土曜日) 15:15から16:00

場 所:経法学部 2階 第2講義室 出席者:23名

1. 保健学科同窓会長挨拶
川上由行保健学科同窓会長より開会の挨拶があった。
2. 保健学科同窓会名誉会長(保健学科長)挨拶
金井誠保健学科学科長より挨拶が行われた。
3. 議長選出
保健学科検査技術学専攻教員 平千明氏が選出された。
4. 平成29年度事業報告および決算報告(資料1, 2)(議案1, 2)
百瀬公人幹事より平成29年度事業報告がされた。
柳澤節子幹事より平成29年度決算報告がされた。
5. 平成29年度記念事業特別積立金・地域保健設置積立金(資料3)(議案3)
6. 会費納入状況報告(資料4-1・4-2)
柳澤節子幹事より会費納入状況について報告があった。
7. 平成29年度会計監査報告(資料5)
三好圭監事より会計監査報告がなされ「通帳、帳簿、証拠書類を監査し適正に処理されていたことを確認した」と報告があった。

議案1, 2, 3について特に質疑なく拍手多数により可決承認された。
8. 平成30年度事業計画および予算(案)(資料6, 7)(議案4, 5)
百瀬公人幹事より平成30年度事業計画(案)について、柳澤節子幹事より平成30年度予算書(案)について説明があった。

議案4, 5について質疑なく拍手多数により可決承認された。
9. その他
特記事項なし
10. 議長解任

平成29年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
 - 1) 学生図書購入
 - 2) 学術国際交流推進
(オーストラリアのカーティン工科大学、シンガポールのシンガポール総合病院のプログラム)
 - 3) 特別講演の開催
 - ・平成29年度 保健学科同窓会特別講演
 - 期 日：2017年6月24日(土曜日) 13:00～15:00
 - 会 場：信州大学旭総合研究棟9階講義室A/B
 - 講 師：佐々百合子先生(「NAOのたまご」代表)
 - テーマ：「2年3カ月を駆け抜けた重い障害をもつ子との日々」
 - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
 - 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈(集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯(優秀学生表彰)
 - 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
 - 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・学生への課外活動支援
 - 8) 学習環境整備
 - ・学生支援
 - 理学・作業療法学専攻(南校舎改修のため30年度に使用)
 - 9) 卒業生を迎えるの懇談会補助
2. 保健学科同窓会分科会支援
 - 1) 看護学専攻……………アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻……………臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻…州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
 - 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第15号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成29年度総会の開催
 - ・平成29年6月24日(土)15:15～16:15 旭総合研究棟9階 講義室A/B
 - ②理事会の開催
 - ・平成30年6月6日(水)18:00～20:00 保健学科中校舎2階会議室
 - ③幹事会の開催
 - ・平成30年2月21日(水)17:00～19:00 保健学科212講義室
 - ・平成30年5月15日(火)17:30～19:30 保健学科ゼミ室1
 - 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
信州大学同窓会連合会関係：
 - ・2017年7月9日(日)8:30～11:00
第25回役員会旭会館3F中会議室(川上同窓会長)
 - ・2018年2月18日(日)9:30～
第26回役員会信州地域技術メディカル展開センター1F(川上同窓会長)
信州大学校友会関係：
 - ・2017年7月9日(日)11:00～12:00
信州大学校友会理事会 旭会館3F大会議室(川上同窓会長)

平成30年度事業計画

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
 - 1) 学生図書購入
 - 2) 学術国際交流推進
(シンガポールのシンガポール総合病院のプログラム)
 - 3) 特別講演の開催
 - 4) 実習指導者連絡協議会開催補助
 - 5) 卒業式・学位記授与式
 - ・祝賀会補助
 - ・卒業記念品の贈呈 (集合写真)
 - ・竹内松次郎賞記念楯 (優秀学生表彰)
 - 6) 入試広報活動補助
 - ・オープンキャンパス補助
 - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
 - 7) 学生課外活動支援
 - ・新入生合宿研修補助
 - ・学生への活動支援
 - 8) 学習環境整備
 - ・学生支援
 - 検査技術科学専攻
 - 理学作業療法学専攻 (平成29年度分)

2. 保健学科同窓会分科会支援
 - 1) 看護学専攻……………アルプス会・桐の木会
 - 2) 検査技術科学専攻……………臨嶺会
 - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻…州嶺会

3. 保健学科同窓会の運営について
 - 1) 同窓会ホームページの運営
 - 2) 同窓会だより第16号の発行
 - 3) 同窓会総会および役員会の開催
 - ①平成30年度総会の開催
平成30年6月23日(土) 15:15～16:00 経法学部第2講義室
 - ②理事会の開催
年1回(5～6月)
 - ③幹事会の開催
 - 4) 同窓会事務局の運営
 - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
 - 6) 信州医学振興会支援

同窓会役員

名誉会長：金井 誠（医学部保健学科）
会長：川上 由行（医学部保健学科）
副会長：高田 明子（医学部附属病院）
理事：看護学専攻8名
赤羽 公子（医学部附属病院）
松本 早苗（医学部附属病院）
茅野 郁子（医学部附属病院）
山下 浩美（医学部附属病院）
三輪百合子（長野県看護協会）
坂口けさみ（医学部保健学科）
坂崎 美穂（看護学専攻学生）
戸村 愛（看護学専攻学生）

検査技術科学専攻4名
後藤 有希（検査技術科学専攻学生）
赤羽 貴行（安曇野赤十字病院）
新井 慎平（医学部附属病院）
樋口由美子（医学部保健学科）
理学療法学専攻2名
綾城 穂高（理学療法学専攻学生）
杉田 勇（諏訪中央病院）
作業療法学専攻2名
宇田川佳葉（作業療法学専攻学生）
井戸 芳和（医学部附属病院）

大学院（前期）1名
金井 峻（博士前期課程院生）
大学院（後期）1名
黒部 恭史（博士後期課程院生）
幹事：奥村 伸生（医学部保健学科）
下里 誠二（医学部保健学科）
柳澤 節子（医学部保健学科）
百瀬 公人（医学部保健学科）
横川 吉晴（医学部保健学科）
監事：中野美奈子（長野県看護協会）
三好 圭（医学部保健学科）
事務局：中山 秀子

信州大学医学部保健学科同窓会会則

信州大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
 - ロ 信州大学医療技術短期大学の卒業生
 - ハ 信州大学医学部保健学科（以下「本学科」という。）の在学生及び卒業生
 - 二 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程及び後期課程（以下「本大学院」という。）の在学生及び修了生
- 二 特別会員
- イ 本学科教員
 - ロ 本学科元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4

分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- 第9条 正会員は、細則に定める会費を入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 理事 18名
（看護8名；検査4名；理学2名；作業2名；
大学院生博士前期課程1名、後期課程1名）
 - 四 幹事 若干名
 - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。
- 第13条 役員は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
一 事業及び決算報告
二 事業計画及び予算
三 会則の制定及び改廃
四 役員を選出
五 顧問の推挙
六 その他の必要事項
2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。
この会則は、平成16年4月1日から施行する。
この会則は、平成19年4月1日から施行する。
この会則は、平成21年4月1日から施行する。

信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………3万円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………1万円また、3年次編入生、博士前期課程及び博士後期課程の大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。……………1万5千円
 - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。……………2万円
 - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。……………5千円保健学科同窓会会員が博士前期課程および博士後期課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。
この細則は、平成16年4月1日から施行する。
この細則は、平成19年4月1日から施行する。
この細則は、平成21年4月1日から施行する。

編・集・後・記

2018年冬季オリンピックで信大卒業生である小平奈緒選手が金メダルを獲得しました。その後、4月には本学入学式での表彰後、新入生に向けた祝辞を聞くことができました。「成功したとしても、失敗したとしても、すべて正解」というコメントがあり、自分で責任を持つことの大切さを語っていました。一途に実直に取り組んできたことを成果とするのはとても大変だと思いますが、なんだか自分の背中を押してもらった気がして、「言葉」が人に及ぼす力を感じました。この同窓会だよりも誰かの力になればと思う次第です。(編集人Y)